

## G1桜花賞

### <最終見解>

桜花賞はドウラメンテ産駒が連覇中。  
ただし、リバティア일랜드、スターズオンアースは歴史的名牝。

昨年 2、3 着のコナコースト、ペリファーニア。  
—昨年 2、3 着のウォーターナビレラ、ナムラクレアが歴史的名牝に  
接戦できたことの方が当レースで有利な馬の特徴を示しています。

この4頭に共通するのは

- ・短距離指向の血統馬であること
- ・3 月以降の前哨戦を使っていること

以上 2 点を満たす馬が有利。

本命はコラソンビート。

父スワーヴリチャードは今年の 3 歳世代の牝馬では種牡馬別賞金獲得ランキングが 1 位。  
スワーヴリチャードの母父はアンブライドルズソング。米国指向の要素を伝えやすい種牡馬。

ハイローのクロスを複数持つ影響もあり、  
スプリント寄りの流れに適應するスピードと体力の完成度に長けた血統構成。

前哨戦を使っているのも有利。タフな血統で使って上昇も見込めます。  
阪神 JF で先着を許した 2 頭には、前哨戦を使った強みと適性で逆転可能。

将来的なスケールはクイーンズウォークとチェルヴィニア。  
ここでも能力を出し切れたら勝てる可能性が高い2頭。

特にクイーンズウォークは兄がグレナディアガーズ。  
同コースのG1朝日杯勝ち馬で、1400mでも高いパフォーマンスを発揮した馬。  
当レース向きの母系です。